

平成28年度 第3回小平市産業振興基本計画検討委員会 会議要録

1 開催日時及び場所

日時：平成29年3月9日（火）午後1時から2時30分まで

場所：中央公民館 2階 講座室2

2 出席者

(1) 委員

8名（尾山委員、小出委員欠席）

(2) オブザーバー

滝澤地域振興部長、多摩信用金庫 価値創造部 嗟峨調査役

(3) 事務局

市：板谷産業振興課長、同入澤係長、同鎌田係長、同十河、同飯泉

多摩信用金庫：経営戦略室 中西調査役

首都大学東京：都市環境学部 太田特任助教、URA室 中西

(4) 傍聴者

1名

3 配布資料

資料① 小平市産業振興基本計画及び小平市農業振興計画策定のための基礎調査報告書（案）

資料② 今後のスケジュール

4 内容（議事要旨）

(1) 議題

① 小平市産業振興基本計画及び小平市農業振興計画策定のための基礎調査報告書（案）

事務局から資料①を用いて、小平市産業振興基本計画及び小平市農業振興計画策定のための基礎調査報告書（案）について説明をした。

② 産業振興基本計画策定に向けたブレインストーミングで取り上げる議題・論点

第4回小平市産業振興基本計画検討委員会で実施予定のブレインストーミングで取り上げる議題・論点について検討を行った。

(2) 質疑応答

（委員長）事務局から説明があった基礎調査報告書（案）の中には専門的な用語や普段聞き慣れない言葉が多く使われていると思う。また、表の見方や考え方など、どんなことでもいいので、分からないことについて質問を受け付けたい。

（委員）まず1点目として人口推計の計算根拠を示してもらいたい。2点目として、今回のアンケート調査はサンプル調査であるが、回答結果に偏りがないことを確認したい。

- (事務局) 人口推計については、今年2月に発表された人口推計報告から引用している。計算根拠などをどこまで示せるか検討したい。
- (委員長) 一般的な傾向として、多摩地域全体は少子高齢化の進展により人口減少されている。計算根拠をどこまで提示できるか検討をお願いしたい。引き続き、回答結果の偏りについて説明をお願いしたい。
- (事務局) 本社機能を有する企業に今後の動向などを伺いたいということで帝国データバンクのデータを元に調査対象を抽出した。一般的に事業所数では小売・卸売業が多い中、今回抽出された割合では建設業が高くなっているため、若干のバイアスがかかっていると思われるが、市内の業種別事業所数割合をみると、多摩地域と比べ、建設業が若干高い傾向があり、許容の範囲と考える。
- (委員) ブリヂストンやルネサス、日立国際電気のような大企業と、中小企業とを分けて分析した方がより実態に近い傾向が掴める項目もあるのではないかと。
- (事務局) ブリヂストンなどの大企業は、本社が市内に無いためアンケート調査の対象からは外れている。
- (委員) 人の移動に関する分析項目についても、ブリヂストンなどは外れているという理解でよいか。
- (事務局) 人の移動に関する項目は、国勢調査からデータを引用しているため、ブリヂストンなどの影響は含まれている。
- (委員) ブリヂストンなど、雇用者数の多い企業が分析結果に影響を及ぼしていると考えられる。その影響を排除した方がよいと考える。
- (委員) 市内にブリヂストンなどの下請け企業がどの程度あるのかというのは興味があるところだと思う。
- (事務局) ブリヂストンなどがアンケート調査の対象から外れているのは事前に把握していたため、いわゆる大企業については、ヒアリング調査で補完した。個社の情報は言えないが、市内にはあまり下請け企業などは無いという傾向であった。
- (委員) P40の表と図のデータの出典が「商業統計調査」となっているが、経済センサスではないのか。
- (事務局) 商業統計調査である。
- (委員) 居住環境の豊かな住宅都市づくりという方針と産業振興をどう共生させていくかがカギになる。P176の図の構成について「住む人・働く人の暮らしを支え、豊にする産業振興」と「雇用や所得・税収を生み出す基盤となる産業振興」が分離されている姿でよいのか。この上部、下部構造の真ん中にインターフェースがあって、それを刺激すると上部、下部がうまく回るようになるということを示しているのか。もう少し詳しく図について説明をお願いしたい。
- (事務局) 基底の構造である「雇用や所得・税収を生み出す基盤となる産業振興」と生活の原動力の構造である「住む人・働く人の暮らしを支え、豊にする産業振興」が車の両輪のように一体となって機能することを示している。
- (委員長) この図はあくまでイメージ図であり、構成要素間の繋がりや上部・下部構造の結びつきなどについて、今後この委員会で検討していくことになる。

(委員) P 1 7 6 以降について、何を言いたいのかが良く分らない。何を伝えようとしているのかももう一度説明をお願いしたい。

(事務局) 調査の分析などから導き出された構成要素からポンチ絵のようなイメージ図が導き出され、そのイメージ図を説明しているのが後段の文章という構成である。

(委員) この章は方向性を示しているものではなく、単に図の説明という理解でよいか。この調査報告書の最後の章で方向付けを行って計画を作るというイメージでいた。

(委員長) 調査報告書で方向付けを行ってそれに沿って計画を作るというよりは、調査報告書を参考にして、これから我々が計画を作っていくということである。

様々な角度から意見、質問を頂戴した。頂戴した意見で参考にすべきところは調査報告書を修正するなどして、仕上げていきたいと思う。

それでは続いて、議題 2 の「産業振興基本計画策定に向けたブレインストーミングで取り上げる議題・論点」に移る。今後我々がこの委員会で議論し、産業振興計画を作っていく訳であるが、どういう点に注目して作っていくのかという議題、論点について、委員からの意見をお願いしたい。

(委員) P 1 7 6 の図は、これまで出てきたキーワードを図式化したものだと理解しており、次回のブレインストーミングを行うための参考になるのではないかと考えている。

計画を考える上でポイントとなるのは 3 点あると思う。まずは「目標設定」。どういう目標を掲げるのかという点を委員会で共有する必要があると考える。次に「成果物」。計画をまとめ、実行に移すためには数値目標などを示したロードマップがあるべきだと思う。最後に「産業振興に対する考え方」。プチ田舎を具体化すること、小平市ならではの切り口、商店街の活性化などが考えられるが、次回の検討委員会で議論すべき重要なポイントとして、ブランド戦略、企業誘致、ICT の活用を挙げたい。

(委員長) 委員から 3 点論点を挙げていただいた。この他にも各委員から 3 点ほど論点を挙げていただきたいと考えている。

(委員) 調査報告の中で、市民の関心が高い商店街の活性化がカギではないかと考える。空き店舗は視点を変えると貴重な資源と捉えることもできる。食に関するニーズが高いことをうまく利用して、商店街の活性化を図っていきたい。もう 1 点として、用途地域についてである。都市計画の分野になってしまうが、土地利用についても産業振興の一環として考えていく必要があると思う。

(委員) 「豊か」とはどういうものかという定義のようなものをこの委員会で共有した方が良いのではないかと考える。次に、子育て中の母親にとっては、商店街で生鮮品をはじめとした生活必需品が全て揃えば非常に助かると思う。また、女性の就労支援の施設（コワーキングスペースすだち）や取り組みが増えると非常に活気ある街になるのではないかと考える。

(委員) 農地の減少にどう歯止めを掛けていくのか、という点を論点として挙げたい。また、農産物に限らず「こだいら」というブランド的なものは今後を見据える上で必要になると考える。

(委員) 調査報告書にもあるとおり、雇用のミスマッチについてどうやって求職者と企業とを繋いでいくのかというのは大事なテーマになると考える。また、企業に対して防災

や防犯への貢献を求める声が強いことに関連して、具体的な手法などを議論できると企業側も動きやすくなるのではないかと考える。

(委員) 現状高く評価されている居住環境の質を落とした産業振興は考えられない。商業、工業、農業関係なく、産業全体として、どういった居住環境と共存した振興策が考えられるかというのをしっかりと議論したい。次に、今後の「こだいら」の新しい価値をどうやって作っていくのか、その価値をどうやって市民と共有していくのかという点は大事なテーマになると考える。

(委員) 今までの産業振興計画というと「雇用や所得・税収を生み出す基盤となる産業振興」に寄ったものが多い。この委員会ではこの点よりも「住む人・働く人の暮らしを支え、豊かにする産業振興」に焦点を当てて議論していくことが、新たな価値の創造につながるのではないかと考える。

(委員長) 各委員から様々な意見を頂戴した。その中で、豊かさや緑・自然という住環境に関連した評価の高さといった、こだいらが今持っているブランド価値をどうやって活かしていくのかというキーワードが多く出てきた。「居住環境との融和」というテーマを1つ設定したい。

次に商店街をどうにかしていこうという意見を多く頂いた。「商店街の活性化」も大事なテーマであると考えます。

最後に、女性の就労や創業、企業誘致などについての意見も多く頂いた。こういった経済活動に繋がる「雇用創出（企業誘致、創業支援、女性の就労促進、中小企業支援など）」もテーマとして設定すべきと考えます。

その他にもいろいろなキーワードを出してもらったが、次回の検討委員会で各テーマについて30分ずつブレインストーミングを行うと想定すると時間の制約上3点くらいかと思う。

事務局から改めてブレインストーミングのテーマを連絡するので、次回の検討委員会までに自分ならこうする、こうしたいといった意見をまとめてきて欲しい。

(3) その他

今後のスケジュールについて

事務局から、資料②を用いて、今後のスケジュールについて説明した。

(委員長) 事務局から説明があった第4回のブレインストーミングは計画策定に向けた非常に重要な回と考える。委員のできる限りの出席をお願いしたい。また、第5回の検討委員会では骨子のような計画の方向性を議論する場になると考えられる。第5回についてもできる限りの出席をお願いしたい。

できればこの場で第4回検討委員会の日程を4月11日午前と決めたいがいかがか。

(各委員) 異議なし

(委員長) それでは次回日程を4月11日午前と決めさせていただく。場所等の詳細は後日事務局からディスカッションのテーマとともに連絡する。

以上で、第3回検討委員会を終了する。

以上